YAMAHA
⚠ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。
取扱説明書
TRICITY
MW125
2CM-F8199-JA

はじめに

JAU62280

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（車をより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAUT2985

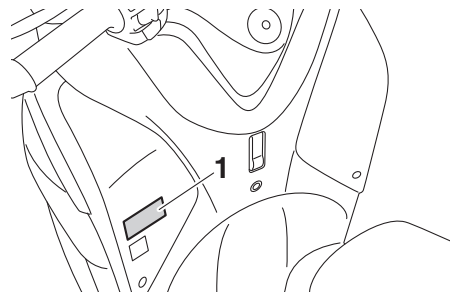
あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

1．安全項目ラベル

⚠ 警　告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

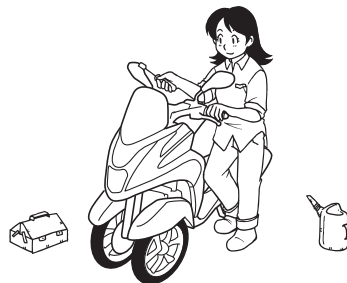
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

JWA11601

⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

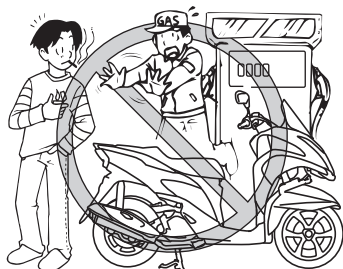
日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令に準じた日常点検を運転する前に行ってください。また、法令に準じた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。

車の異状

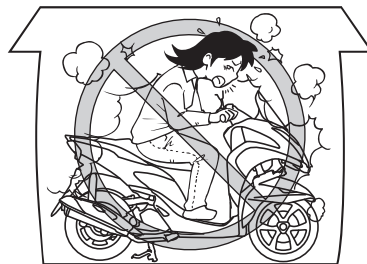
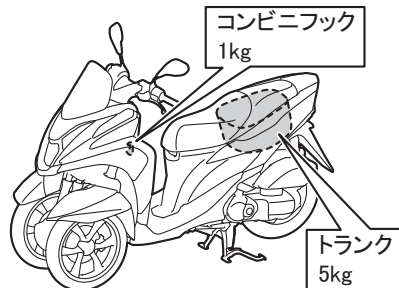
次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。

風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

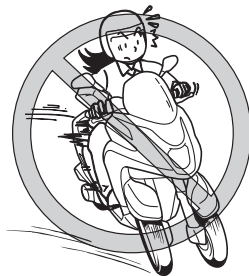
風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。

荷物を積むときは

- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレストボード

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストボードにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストボードにのせさせます。

押して移動するときはエンジンを止める
車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。
やむをえずエンジンをかけたまま移動するときは、スロットルグリップを不用意に回さないようにするため、必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。
スロットルグリップを持って行うと思わぬ事故の原因となります。

乗車定員は２名
ただし、免許取得後１年未満の運転者は、法令により２人乗りはできません。
タンデムシート以外の場所には人を乗せないでください。

急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

誤った方法でエンジンを停止しない
誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない
エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

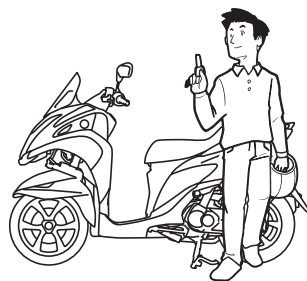
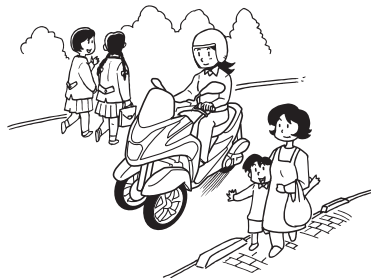
自賠責保険に必ず加入
自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。
また、保険の期限切れにも注意してください。

JAUT3072

歩行者と他の車のために

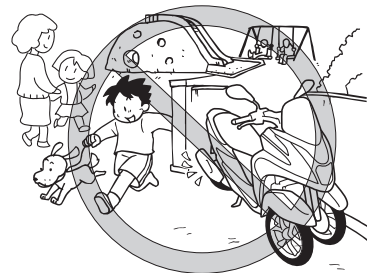
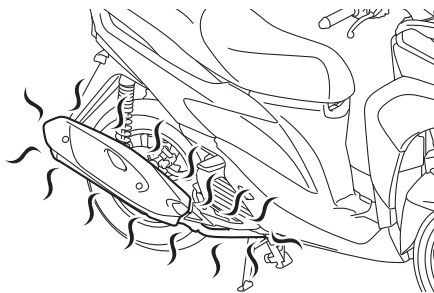
他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーシャッターを閉めて、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

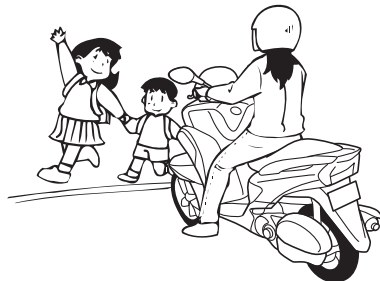
JWA12241

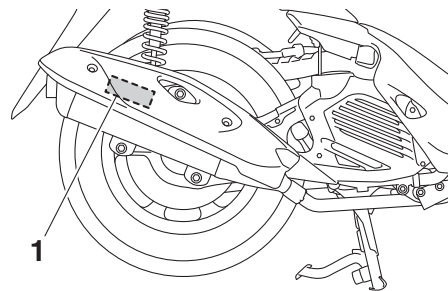
警告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**

昼間はヘッドライトを下向きに
この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27671

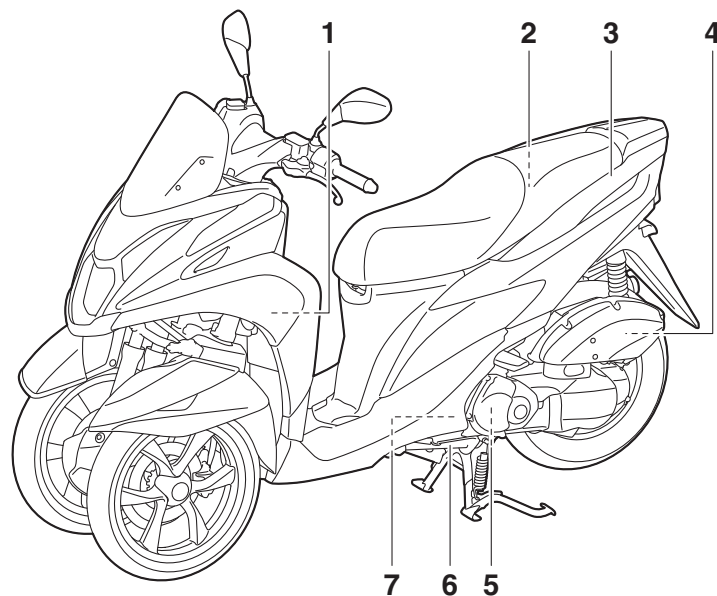
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり
自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

違法改造はしない
- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには “YAMAHA” マークが刻印されています。

1. “YAMAHA” マーク

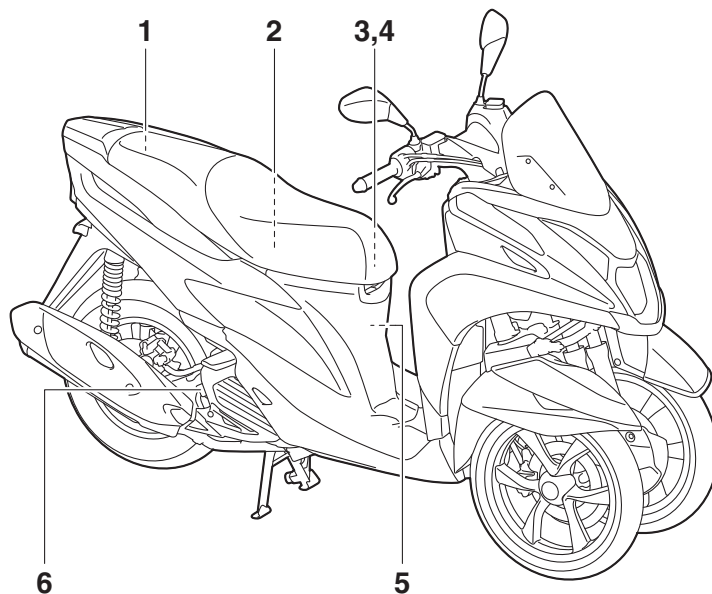
環境への配慮
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU10411

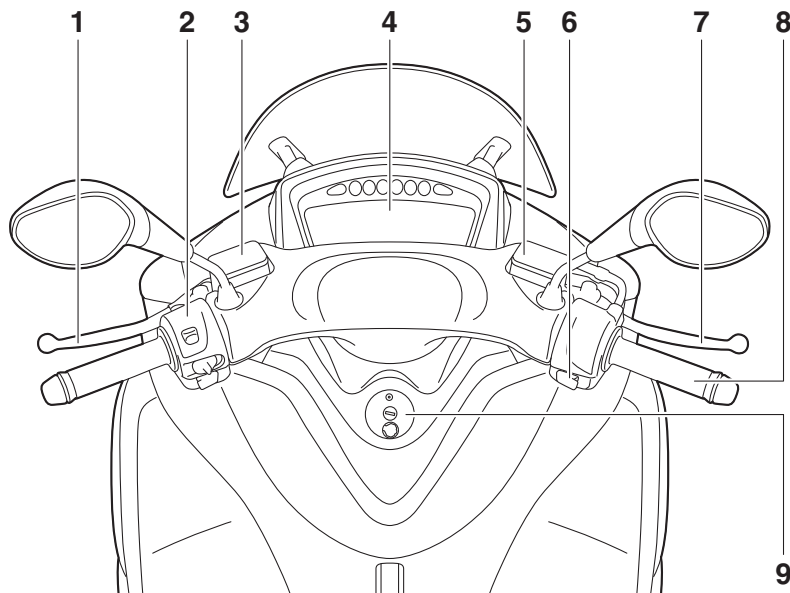
左側面

1. コンビニフック（P3-10）
2. トランク（P3-11）
3. スタンディングハンドル（P3-11）
4. エアクリーナーエレメント（P 6-6）
5. V ベルトフィルターエレメント (P6-6)
6. サイドスタンド（P3-12）
7. リカバリータンク (P 6-4)

各部の名称

JAU10421

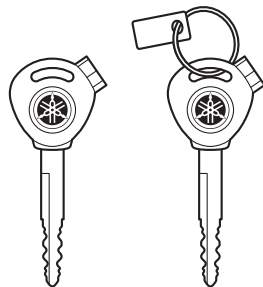
右側面

1. サービスツール（P6-2）
2. フューエルタンクキャップ（P3-8）
3. メインヒューズ（P6-14）
4. ヒューズボックス（P 6-14）
5. バッテリー（P6-12）
6. オイル注入口（P6-2）

JAU10431

運転装置と計器類

1. リヤブレーキレバー（P3-8）
2. 左ハンドルバースイッチ（P3-7）
3. リヤブレーキリザーバータンク（P6-10）
4. マルチファンクションメーター（P3-4）
5. フロントブレーキリザーバータンク（P6-10）
6. スタータースイッチ（P 3-7）
7. フロントブレーキレバー（P3-8）
8. スロットルグリップ（P5-2）
9. メインスイッチ / ハンドルロック（P3-1）

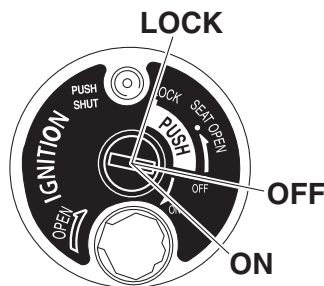
JAU31082

キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- 1 本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを 2 本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。

JCA12502

注 意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

JAUT2402

メインスイッチ

メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロック、シートのロック解除を行います。

JWA11621

警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAUT1972

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプとマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。メインスイッチを OFF にするかサイドスタンドを使用するまで点灯し続けます。

JAU46011

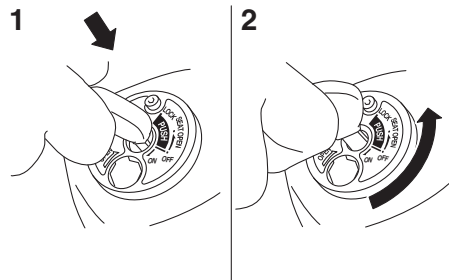
OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU10685

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

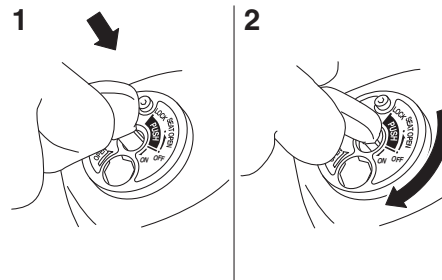
ハンドルロックのしかた

1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し左右に動かしながらキーを回します。

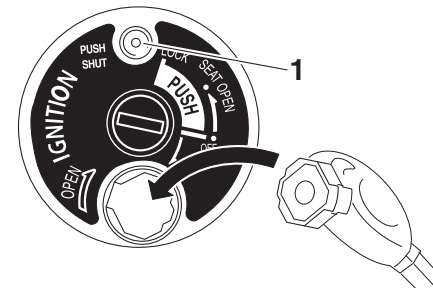
3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた

1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

JAUN0352

キーシャッター

メインスイッチのキー孔をガードします。キーシャッターの開閉は、キーとキーシャッターボタンを使って行います。

1. キーシャッターボタン

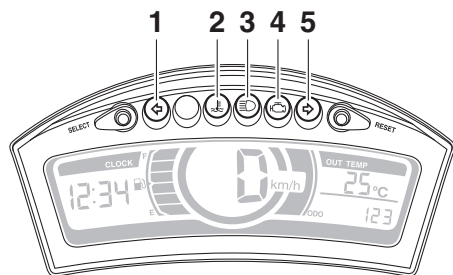
キーシャッターを開けるとき

キーのマスコット部にある突起部分をメインスイッチにあるくぼみに差し込み、右に回すとキーシャッターが開きます。

キーシャッターを閉じるとき

キーシャッターボタンを押すと、キーシャッターが閉まります。

JAU49396

警告灯と表示灯

1. 方向指示器表示灯（左）“⇦”
2. 水温警告灯 “ ”
3. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
4. エンジン警告灯 “ ”
5. 方向指示器表示灯（右）“⇨”

JAU11031

方向指示器表示灯 “⇦/⇨”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11081

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU11447

水温警告灯 “ ”

エンジン冷却水が規定温度以上になったとき、警告灯が点灯するか、点滅します。このときは、エンジンを止めて冷やしてください。

JCA11851

注 意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

要 点

メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAU11506

エンジン警告灯 “ ”

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。警告灯が点灯もしくは点滅したときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。(詳しくは 3-3 ページの自己診断機能の説明を参照してください。)

要 点

メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU12095

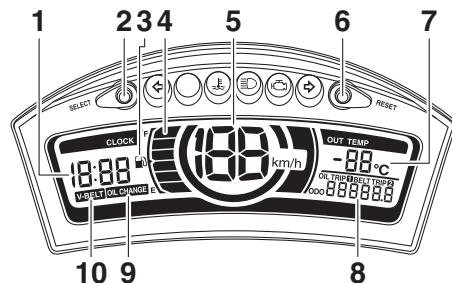
自己診断機能

このモデルには電気回路の自己診断装置が備わっています。
回路のいずれかが故障した場合は、エンジン警告灯が点灯または点滅します。
エンジン警告灯が点灯または点滅した場合、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA11171

注 意

エンジン警告灯が点灯または点滅している時は、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早くヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU61182

マルチファンクションメーター

1. 時計
2. “SELECT” ボタン
3. 燃料残量警告表示 “⛽”
4. 燃料計
5. スピードメーター
6. “RESET” ボタン
7. 外気温度表示
8. オドメーター／トリップメーター
9. エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE”
10. V ベルト交換表示 “V-BELT”

JWA12423

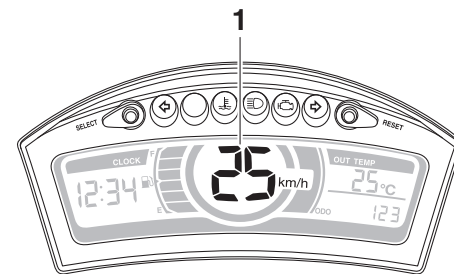
⚠ 警 告

マルチファンクションメーターの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

マルチファンクションメーターには以下の機能があります。

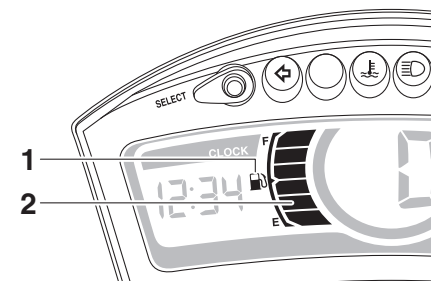
- スピードメーター
- 燃料計
- 時計
- 外気温度表示
- オドメーター
- トリップメーター
- フューエルトリップメーター
- エンジンオイルトリップメーター
- V ベルトトリップメーター
- エンジンオイル交換表示
- V ベルト交換表示

要 点

- “SELECT” ボタンや “RESET” ボタンを使用するときは、メインスイッチを ON にしてください。
- メインスイッチを ON にしたときのメーターの初期表示中、エンジン警告灯と水温警告灯だけが点灯したときは、バッテリー電圧が低下しているおそれがあります。ヤマハ販売店でバッテリーを充電してください。

スピードメーター

1. スピードメーター

車の速度を示します。

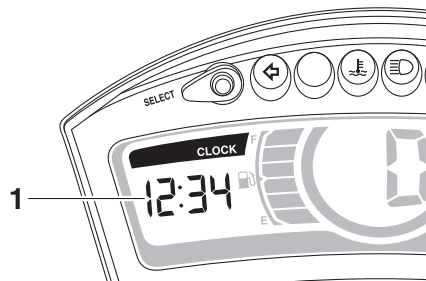
燃料計

1. 燃料残量警告表示 “⛽”
2. 燃料計

メインスイッチを ON にするとフューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントの数

が減ります。ガソリンの残量が少なくなると、残りの 1 セグメントと燃料残量警告表示 “⛽” が点滅して知らせます。ガソリンの残量が少なくなったら、早めに補給してください。

要　点

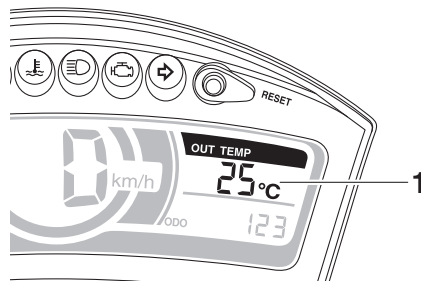
この燃料計には自己診断機能が装備されています。電気回路に異常が検出された場合、燃料計のセグメントと燃料残量警告表示“⛽” が点滅します。このような表示になったときは、ヤマハ販売店に電気回路の点検を依頼してください。

時計

1. 時計

メインスイッチを ON にすると時計が表示されます。

時刻調整のしかた

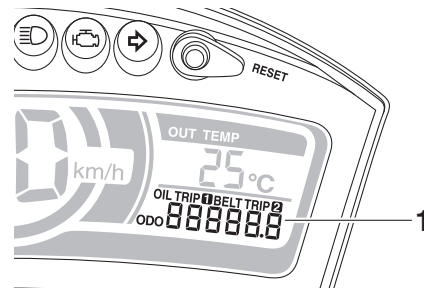
1. メインスイッチを ON にします。
2. “SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に 2 秒以上押します。
3. ＜時＞の表示が点滅したら、“RESET” ボタンを押して＜時＞を合わせます。
4. “SELECT” ボタンを押すと、＜分＞の表示が点滅します。
5. “RESET” ボタンを押して＜分＞を合わせます。
6. “SELECT” ボタンを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

外気温度表示 “OUT TEMP”

1. 外気温度表示

外気温度を表示します。(表示範囲は –10°C ～ 40 °C、1 °C 刻み)

要　点

- 外気温度が–11°C以下のとき、–11°C以下の温度は表示されません。
- 外気温度が41°C以上のとき、41°C以上の温度は表示されません。
- 停車中や低速走行中（約 20km/h 以下）は、外気温度が正しく表示されない場合があります。

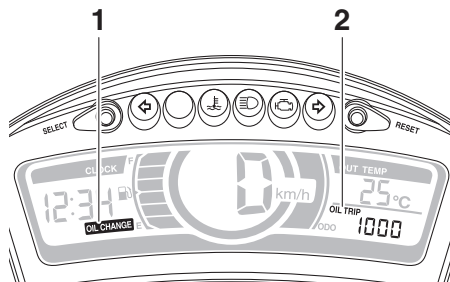
オドメーター／トリップメーター

1. オドメーター／トリップメーター

“SELECT” ボタンを押すごとに、オドメーターモード “ODO”、トリップメーターモード “TRIP”、エンジンオイルトリップメーターモード “OIL TRIP” と V ベルトトリップメーターモード “BELT TRIP” が下記の順で切り替わります。

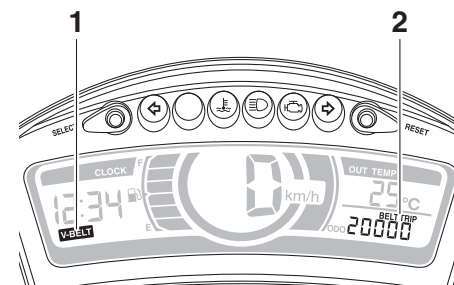
ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → OIL TRIP → BELT TRIP → ODO

フューエルタンクのガソリンの残量が約 1.6 L 以下になると燃料計の第 1 セグメントと燃料残量警告表示 “⛽” が点滅し、表示は自動的にフューエルトリップメーターモード “F” に切り替わり、その時点からの走行距離を表示

します。このとき “SELECT” ボタンを押すと、オドメーターモードと各トリップメーターモードは下記の順に切り替わります。
F → TRIP 1 → TRIP 2 → OIL TRIP → BELT TRIP → ODO → F
トリップメーターのリセットは、“SELECT” ボタンを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてから“RESET”ボタンを 1 秒以上押します。フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にトリップメーターの表示になります。
エンジンオイルトリップメーター、V ベルトトリップメーターのリセットは、“SELECT” ボタンを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてから“RESET”ボタンを 3 秒以上押します。

エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE”

1. エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE”
2. エンジンオイルトリップメーター

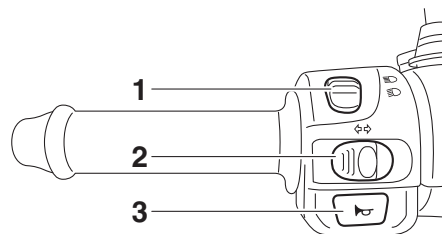
エンジンオイルの交換時期を知らせます。初回は 1000 km 走行時、2 回目はリセット後 3000 km 走行時、以降はリセット後 4000 km 走行すると表示します。エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” が表示されたら、早めにヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。
オイル交換後はエンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” をリセットしてください。リセットはエンジンオイルトリップメーターを表示させてから “RESET” ボタンを 1 秒押して “OIL CHANGE” を点滅させ、さらに “RESET” ボタンを 3 秒押します。エンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” がリセットされます。
エンジンオイル交換表示が表示される前にオイル交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。

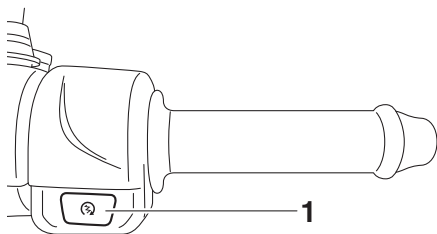
V ベルト交換表示 “V-BELT”

1. V ベルト交換表示 “V-BELT”
2. V ベルトトリップメーター

V ベルトの交換時期を知らせます。走行距離が 20000 km になると V ベルト交換表示 “V-BELT” を表示します。V ベルト交換表示 “V-BELT” が表示されたら、早めにヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。
V ベルト交換後は V ベルトトリップメーターと V ベルト交換表示 “V-BELT” をリセットしてください。リセットは V ベルトトリップメーターを表示させてから“RESET”ボタンを 1 秒押して “V-BELT” を点滅させ、さらに “RESET” ボタンを 3 秒押します。V ベルトトリップメーターとVベルト交換表示“V-BELT” がリセットされます。
V ベルト交換表示が表示される前に V ベルトを交換したときも、リセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。

JAU1234H

ハンドルスイッチ

<左>

1. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣D/≣D”
2. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
3. ホーンスイッチ “📯”

<右>

1. スタータースイッチ “(⚡)”

JAU12401

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣D/≣D”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≣D（上向き）：遠くを照らします。
≣D（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU12461

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
⇨：右側の方向指示灯が点滅します。
⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠ 警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ “📯”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU12722

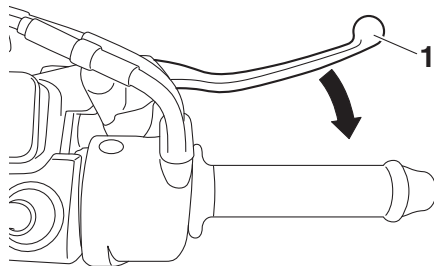
スタータースイッチ “(⚡)”

サイドスタンドを上げた状態で、リヤブレーキレバーを握りながらこのスイッチを押すと、スターターモーターが回転しエンジンが始動します。

JCA11882

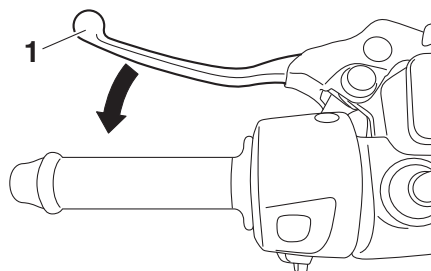
注 意

- **スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。**

JAU12902

フロントブレーキレバー

1. フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバーは、ハンドルの右側に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをスロットルグリップに向けて握ります。

JAUS1963

リヤブレーキレバー

1. リヤブレーキレバー

リヤブレーキレバーは、ハンドルの左側に取り付けられています。リヤブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。
この車は、ユニファイドブレーキシステムを装備しています。
リヤブレーキレバーを握ると、リヤブレーキが作動すると共にフロントブレーキが作動します。効果的な制動力を得るためには、フロントブレーキレバーとリヤブレーキレバーの両方を同時に操作してください。

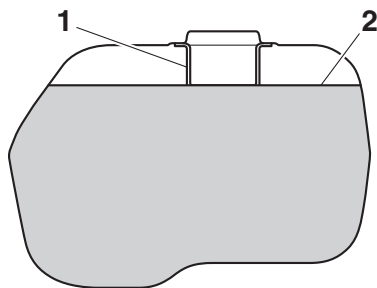
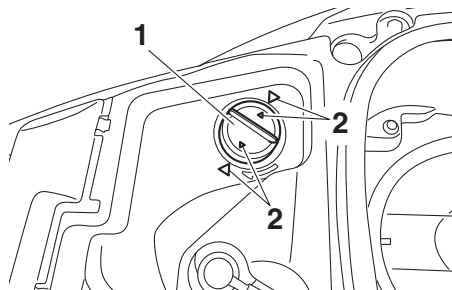
JAU37473

フューエルタンクキャップ

JWA12172

⚠ 警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。**
- **給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。**
- **給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。**
- **給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。**

1. フィラーチューブ
2. 給油限度

1. フューエルタンクキャップ
2. “△” マーク

フューエルタンクキャップの取り外しかた

1. シートを開けます。(3-10 ページ参照)
2. フューエルタンクキャップを反時計方向に回して取り外します。

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. フューエルタンクキャップをタンクの開け口に挿入し、時計方向に回してキャップを取り付けます。

要　点

キャップ側と車体側の “△” マークが合う位置まで回してください。

2. シートを閉めます。

JAU31461

燃料

JAU28312

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 6.6 L

JCA12512

注 意

- **必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。**
- **こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。**
- **タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。**

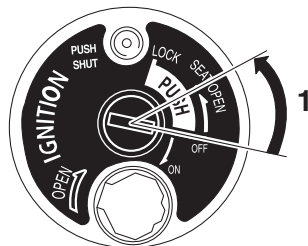
JAU39181

シート

シートの開けかた

1. メインスタンドを立てます。
2. キーをメインスイッチに差し込み、反時計方向に回します。

要　点

キーは押しこまないで回してください。

1. 開く

3. シートを持ち上げて開きます。

シートの閉めかた

シートを降ろし、シート後部を押さえてロックします。

要　点

シートを降ろしたら確実にロックされているか確認してください。

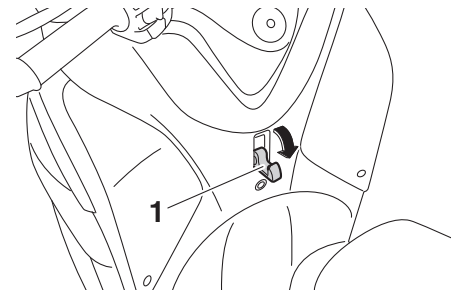
JAU28521

書類入れ

メンテナンスノート、自賠責保険証はビニール袋に入れて、トランク内に保管してください。

JAUT3901

コンビニフック

コンビニフックを引き出し、手さげ袋などを掛けます。

1. コンビニフック

要　点

コンビニフックは、自動的に元の位置には戻りません。

JWA11681

⚠ 警 告

コンビニフックに掛けられる荷物は、1 kg までです。

JAU61130

トランク

シートの下にトランクがあります。(3-10ページ参照)

JWA12192

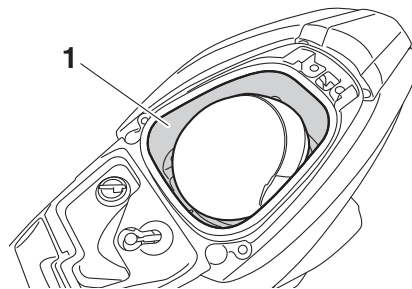
警 告

トランク内に積める荷物は、5 kg までです。

JCA12423

注 意

- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **トランク内は直射日光、エンジンの熱などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。**

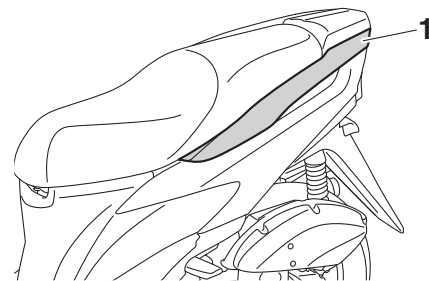
図のように、ヘルメットの後部を前向きにして収納します。

1. トランク

要 点

- ヘルメットのサイズや形状によっては、収納できないものもあります。
- シートを開けたまま、車から離れないでください。

JAU29911

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。

1. スタンディングハンドル

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

⚠ 警 告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU62310

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム(サイドスタンドスイッチおよびブレーキランプスイッチを含む)には次の機能があります。

- サイドスタンドが上がっているが、どちらかのブレーキレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- どちらかのブレーキレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- サイドスタンドを下げると、エンジンは停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11551

⚠ 警 告

- **点検中はメインスタンドを立ててください。**
- **点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。**

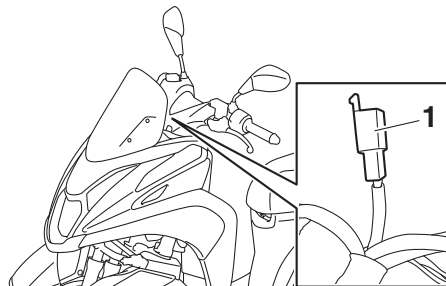
エンジンが停止した状態で：
1.サイドスタンドを下ろします。
2.メインスイッチをONにします。
3.リヤブレーキレバーを握ります。
4.スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
いいえ
はい
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが停止した状態のまま：
5.サイドスタンドを上げます。
6.リヤブレーキレバーを握ります。
7.スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
ブレーキランプスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが始動した状態のまま：
8.サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？
はい
いいえ
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

JAU61140

DC コネクタ

JCA20090

注 意

DC コネクタに接続したアクセサリーは、エンジンが停止している場合には使用しないでください。また、接続負荷が 120 W (10 A) を超えないようにしてください。ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。

1. DC コネクタ

この車には、DC コネクタが搭載されています。
DC コネクタに接続した 12 V のアクセサリーは、メインスイッチが ON のとき使用することができます。

日常点検

JAU15598

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)

4

JAU30173

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11733

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU45311

要　点

この車には、メインスイッチが ON のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させる機構が装備されています。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。

JAU62320

エンジン始動

JWA11562

⚠ 警 告

- **エンジンを始動するときには、3-12 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

JCA11921

注 意

初めて車両を運転する前に、5-3 ページのならし運転のしかたを参照してください。

要　点

サイドスタンドを下ろした状態では、エンジンは始動できません。また、エンジン始動後、サイドスタンドを出すとエンジンは停止します。

1. メインスタンドを立てます。
2. メインスイッチを ON にします。
3. スロットルを完全に閉じます。
4. リヤブレーキレバーをしっかり握り、スタータースイッチを押して、エンジンを始動させます。

要　点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

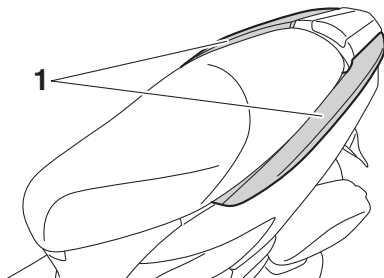
JAU45093

発進

JWA12261

⚠ 警 告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちながら、車を前に押し出してメインスタンドを戻します。

1. スタンディングハンドル

JWA12271

⚠ 警 告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

2. シートにまたがり、バックミラーを調整します。
3. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
4. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12281

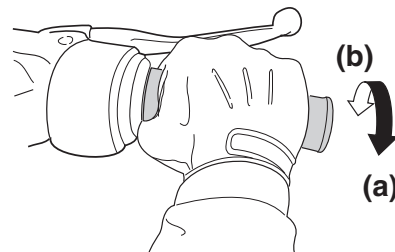
⚠ 警 告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

5. 方向指示器を消灯します。

JAU16782

加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉めたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。

JCA12681

注 意

上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となります。

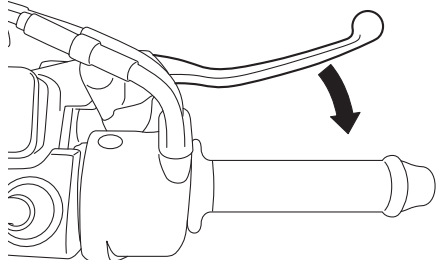
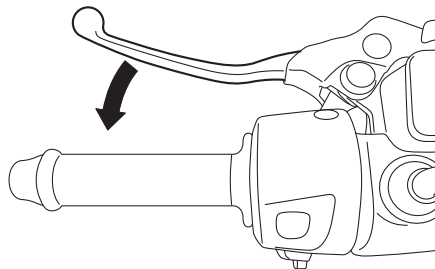
JAU16794

ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

＜フロントブレーキ＞

＜リヤブレーキ＞

JWA11573

警 告

- **急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。**
- **踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。**
- **濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。**
- **下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。**
- **連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。**

JAU31471

ならし運転

JAU27742

ならし運転のしかた

車を長持ちさせるために、ならし運転を行ってください。

乗りはじめてから約 1 か月間（または 1000 km 走行まで）は、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警告

- **エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。**
- **草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。**
- **傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。**

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

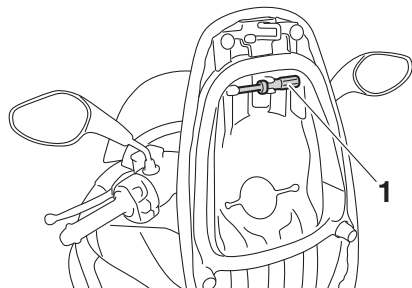
JWA15461

警 告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU39692

サービスツール

1. サービスツール

サービスツールはシートの裏側にあります。(3-10 ページ参照)

JAU30305

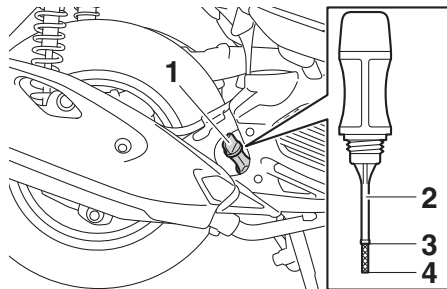
エンジンオイル

エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立てます。(車を垂直にする) 2 ～ 3 分後、オイルが安定してからオイルレベルゲージを外します。レベルゲージ部をきれいにふいてオイル注入口に (ねじ込まないで) 差し込み、もう一度取り出してオイル量を点検します。

1. オイル注入口
2. オイルレベルゲージ
3. フルレベル
4. ロアレベル

要　点

オイル量がフルレベルとロアレベルの間にあれば適切です。

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。(推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照)
4. オイルレベルゲージをオイル注入口に差し込み、確実に締めます。

JAU62350

エンジンオイルの交換時期

初回：
　1 か月点検時または 1000 km 時
2 回目：
　4000 km 時
3 回目以降：
　4000 km 走行ごと、または 1 年ごと
定期交換時オイル量：
　0.80 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JWA11861

警告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**
- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

要点

- エンジンオイル交換表示“OIL CHANGE”は回路の確認のため、走行距離に関係なくメインスイッチを ON にすると一旦表示されます。
- エンジンオイル交換表示“OIL CHANGE”が表示されたら、早めにヤマハ販売店でオイル交換を受け、エンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示をリセットしてください。リセットせずにそのまま走行しますと、交換時期がずれてしまいます。（3-4 ページ参照）

JAU30664

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 走行時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと
定期交換時オイル量：
0.20 L
推奨オイル：
ヤマルーブ ギヤオイル

ファイナルギヤオイルの交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

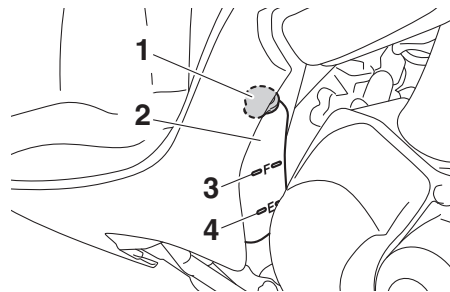
冷却水

JAU30723

冷却水量の点検

要 点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。

1. リカバリータンクキャップ
2. リカバリータンク
3. フルレベル
4. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU30804

冷却水のつくりかた

ヤマルーブロングライフクーラントと水道水を 1 対 1 で混ぜ合わせます。

JWA11882

⚠ 警 告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- **目に入ったとき**
  水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- **皮膚や衣類についたとき**
  すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- **飲んだとき**
  すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12111

注 意

補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

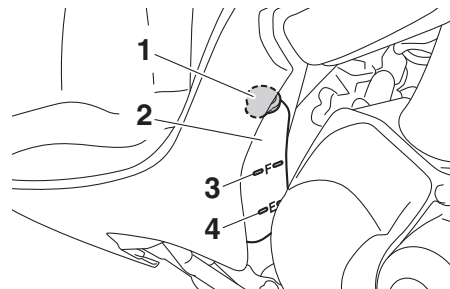
JAU30811

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、リカバリータンクキャップを開けて冷却水をフルレベルとロアレベルの中間まで補充します。

1. リカバリータンクキャップ
2. リカバリータンク
3. フルレベル
4. ロアレベル

JCA12121

注 意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

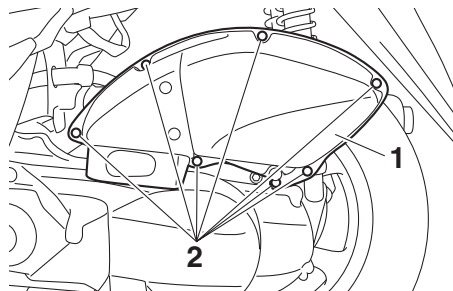
6

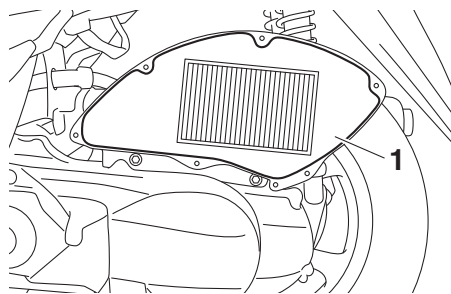
JAU60991

エアクリーナーエレメント、V ベルトフィルターエレメント

エアクリーナーエレメントは 20000 km 走行ごとに交換してください。V ベルトフィルターエレメントは10000 km走行ごとに点検、清掃してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、上記よりも短い距離で交換または点検、清掃を行ってください。

エアクリーナーエレメントの交換

1. メインスタンドを立てます。
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。

1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー

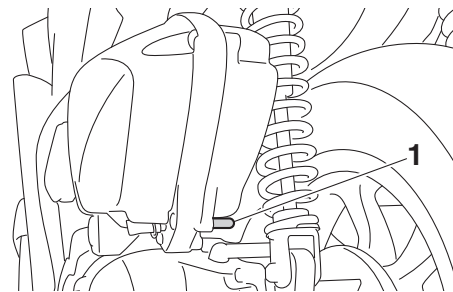
3. エアクリーナーエレメントを取り外します。

1. エアクリーナーエレメント

4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

JCA11951

注 意

- **エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。**
- **エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。**

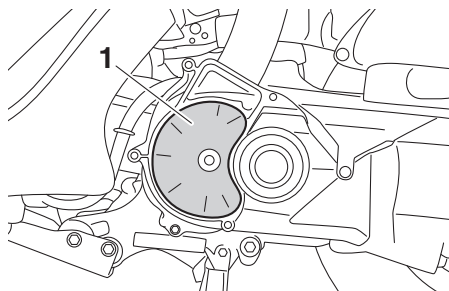
ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホースの清掃

1. ブローバイガス還元装置のブリーザードレンホース

1. ブリーザードレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザードレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

V ベルトフィルターエレメントの清掃

1. メインスタンドを立てます。
2. ボルトを外し、V ベルトフィルターケースカバーを取り外します。

1. V ベルトフィルターケースカバー
2. ボルト

3. Vベルトフィルターエレメントを取り外します。

1. V ベルトフィルターエレメント

4. Vベルトフィルターエレメントをきれいな灯油で洗浄し、軽くしぼります。

JWA12251

警 告

ガソリンや引火性の高い洗浄剤は引火のおそれがありますので、使用しないでください。

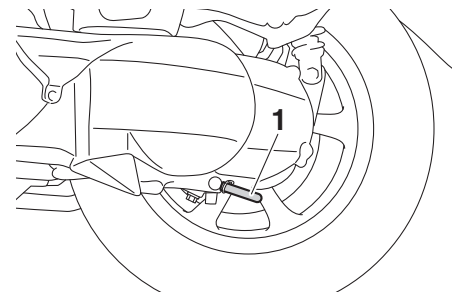
5. 布切れなどでVベルトフィルターエレメントを包み、乾かします。
6. Vベルトフィルターエレメントの損傷を点検します。損傷している場合は交換します。
7. ヤマルーブフィルターオイルをVベルトフィルターエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。
8. Vベルトフィルターエレメントを V ベルトフィルターケースに取り付けます。

JCA13031

注 意

V ベルトフィルターエレメントは確実に装着してください。

9. Vベルトフィルターケースカバーを取り付け、ボルトを締め付けます。

V ベルトケースチェックホースの清掃

1. V ベルトケースチェックホース

1. V　ベルトケースチェックホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。
2. 汚れや水があった場合は、V ベルトケースチェックホースを取り外して清掃し、元に戻します。

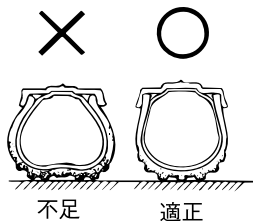
6

JAU31012

タイヤ

空気圧

6

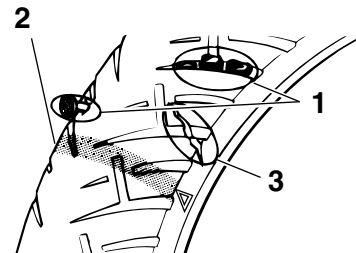
タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧：
1 名乗車：
前輪：
175 kPa (1.75 kgf/cm²)
後輪
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
2 名乗車：
前輪：
175 kPa (1.75 kgf/cm²)
後輪
225 kPa (2.25 kgf/cm²)

要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28744

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に原付のタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが1.6mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

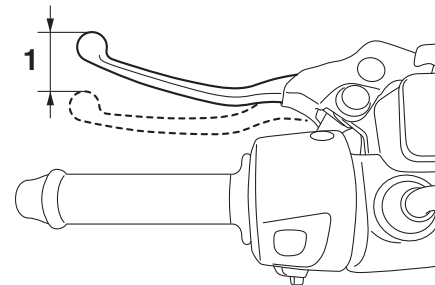
タイヤサイズ：
前輪：
90/80-14M/C 43P
後輪：
110/90-12 64L
指定タイヤ：
前輪：
CHENG SHIN/M6231
後輪：
CHENG SHIN/M6232

JAU62330

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

＜フロントブレーキ＞
フロントブレーキレバーの遊びは、無調整式です。

＜リヤブレーキ＞
ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。遊びが 20 mm を超えている場合は、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

1. 遊び

JWA14212

警　告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、ブレーキ油圧システムの中に空気が混入しているおそれがあります。ブ

レーキ油圧システムの中に空気が混入した場合は、ヤマハ販売店でエア抜きを行ってください。ブレーキ油圧システムの中に空気が混入すると、ブレーキの性能を低下させ事故の原因となります。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

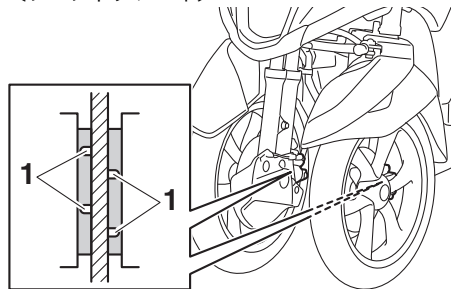
警 告

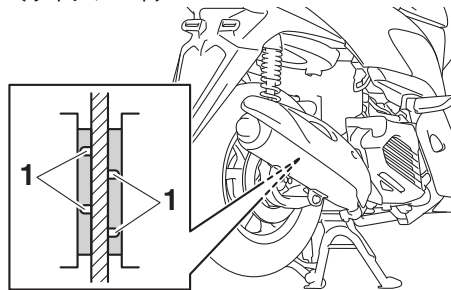
走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU29582

ブレーキパッドの点検

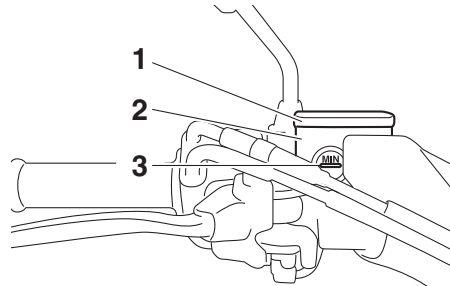
ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。
インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

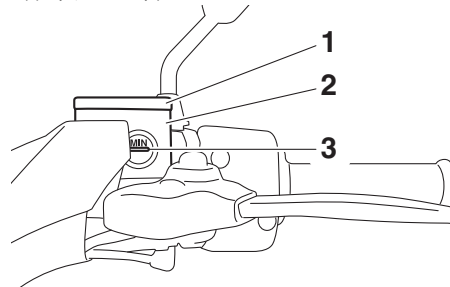
＜フロントブレーキ＞

1. インジケーター溝

＜リヤブレーキ＞

1. インジケーター溝

JAU44232

ブレーキ液量の点検

＜フロントブレーキ＞

1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

＜リヤブレーキ＞

1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

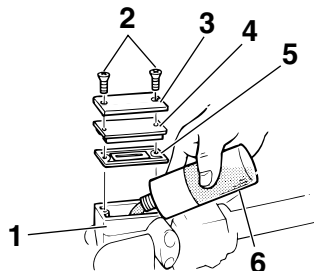
JWA12151

⚠ 警 告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

JAU31197

ブレーキ液の補給

1. マスターシリンダーのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。

1. リザーバータンク
2. スクリュー
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム
6. ブレーキ液

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意してキャップを取り付け、スクリューを締め付けます。

指定ブレーキ液：
ヤマルーブ ブレーキフルード BF-4 (DOT-4)

JWA12072

⚠ 警 告

- **ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。**
- **ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。**
- **液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。**

JCA12331

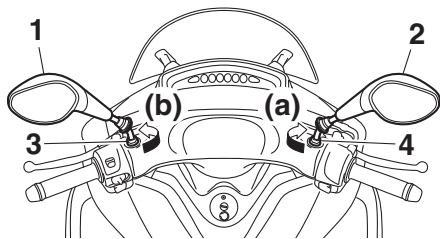
注 意

- **ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。**
- **ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。**

JAU43562

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り（a）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り（b）方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。

1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**
- **ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。**
- **落下などの強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。**

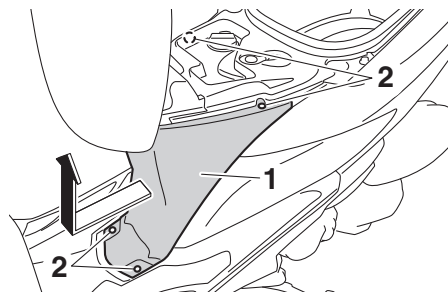
JCA12142

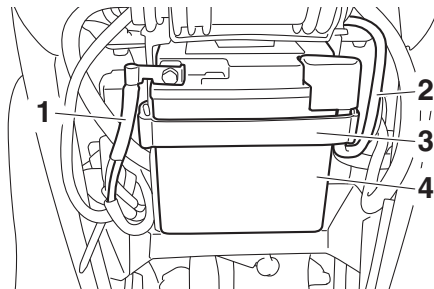
注 意

- **このバッテリーは密閉式の 12V です。**
- **このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。**
- **補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。**
- **長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。**

JAU62340

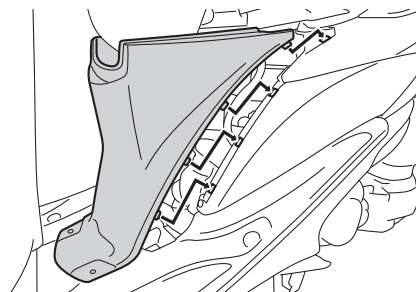
バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. シートを開けます。(3-10 ページ参照)
3. スクリューを外し、カバーを取り外します。

1. カバー
2. スクリュー

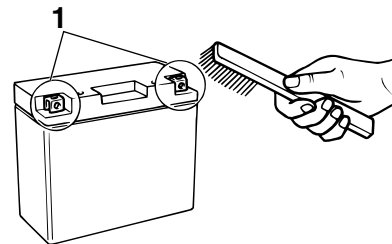
4. バッテリーバンドを取り外します。

1. －リード線
2. ＋リード線
3. バッテリーバンド
4. バッテリー

5. －（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
6. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

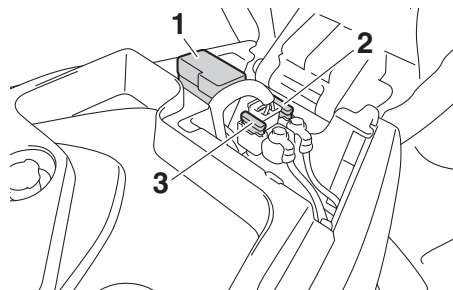
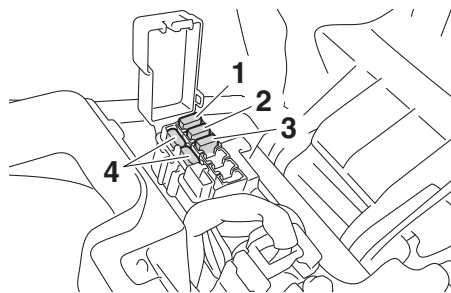
取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

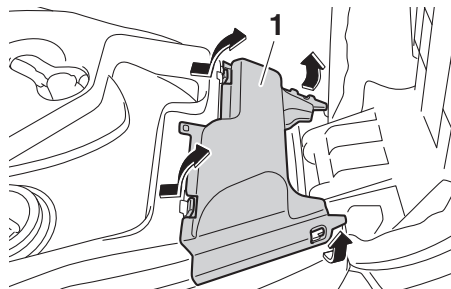
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

1. ターミナル

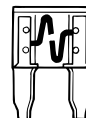
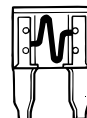
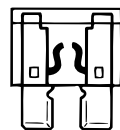
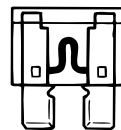
JAU60981

ヒューズ交換

メインヒューズと系統別ヒューズボックスは、シートの下にあります。（3-10 ページ参照）

1. ヒューズボックス
2. スペアメインヒューズ
3. メインヒューズ

1. バックアップヒューズ （時計）
2. シグナルヒューズ
3. ヘッドライトヒューズ
4. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合は、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. シートを開けます。（3-10 ページ参照）
3. 図のようにヒューズボックスカバーを取り外します。

1. ヒューズボックスカバー

4. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

規定ヒューズ：
メイン :
20.0 A
ヘッドライト :
15.0 A
シグナル :
10.0 A
バックアップ :
10.0 A

5. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。

6

6. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。
7. ヒューズボックスカバーを取り付け、シートを閉めます。

JCA12862

注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

JAU29444

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-14 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU62360

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？
2. ガソリンはありますか？
   燃料計にてガソリン量を確認してください。
   燃料計の1セグメントと燃料残量警告表示が点滅しているときはフューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
3. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを押しましたか？
5. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してから、5-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

スタータースイッチを押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？
2. リヤブレーキレバーを握ってスタータースイッチを押しましたか？
3. サイドスタンドを使用していませんか？

以上のことを確認してもスターターモーターが回らないときは、・・・・

- ヒューズ切れが考えられます。6-14 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で確認してください。

1. メインスイッチが ON になっていますか？
2. 各スイッチを作動させていますか？
3. エンジンは始動できますか？

以上のことを確認してもランプ類が点灯しないときは、・・・・

- ヒューズ切れが考えられます。6-14 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、ランプ自体の球切れが考えられます。「製品仕様」のページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？
燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計の 1 セグメントと燃料残量警告表示が点滅しているときはフューエルタンクのガソリン残量が少なくなっています。最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
上記のことを確認してから、5-1 ページの方法でエンジンをかけなおしてください。

走行中、V ベルト交換表示 “V-BELT” が表示されたときは？

早めに、ヤマハ販売店で V ベルトを交換してください。
交換後、リセットスイッチを押すと V ベルト交換表示は消灯します。（3-4 ページ参照）

JCA12531

注 意

V ベルトを交換しないまま走行すると、走行不能となるなど、故障の原因となります。

走行中、エンジンオイル交換表示 “OIL CHANGE” が表示されたときは？

早めに、ヤマハ販売店でエンジンオイルを交換してください。（推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照）
交換後、リセットスイッチを押すとエンジンオイル交換表示は消灯します。（3-4 ページ参照）

JCA12311

注 意

オイル交換をしないまま走行すると、エンジンが故障する原因となります。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

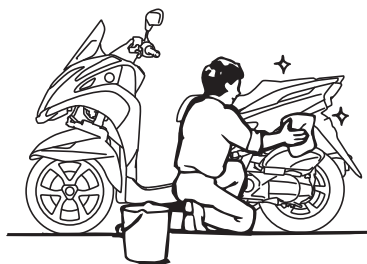
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27976

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス： ユニコンカークリーム

JWA11931

警 告

- **洗車はエンジンが冷えているときにしてください。**
- **洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になることがあります。**

JCA12214

注 意

- **エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。**
- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポン**

ジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

要　点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU27991

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。
（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）
洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。
長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11951

警 告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

- **縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。**
- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU28051

ウインドシールドの取り扱い

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11981

警 告

ウインドシールドとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12231

注 意

- **ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。**

JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。

JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28084

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28114

ヤマルーブプレミアムシンセティック

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマルーブスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

4 ストロークエンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下の URL を入力してホームページを参照するか、「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

http://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル	検索

製品仕様

寸法 :
全長 :
1905 mm
全幅 :
735 mm
全高 :
1215 mm
シート高 :
780 mm
軸間距離 :
1310 mm
最低地上高 :
120 mm

重量 :
車両重量 :
152 kg
分布荷重（前）:
75 kg
分布荷重（後）:
77 kg
車両総重量 :
262 kg
分布荷重（前）:
103 kg
分布荷重（後）:
159 kg
乗車定員 :
2 名

性能 :
定地燃費（国土交通省届出値）:
35.8 km/L/60 km/h
最小回転半径 :
2300 mm
最高出力 :
8.1 kW@9000 r/min (11 PS@9000 r/min)
最大トルク :
10 Nm@5500 r/min (1.0 kgf-m@5500 r/min)

エンジン :
原動機種類 :
4 ストローク水冷 SOHC
気筒数・配列 :
単気筒
総排気量 :
124 cm^3
内径 x 行程 :
52.4 × 57.9 mm
圧縮比 :
10.9 : 1
エアフィルターエレメント :
湿式ろ紙
クラッチ形式 :
乾式内拡重錘式
変速機形式 :
V ベルト式無段変速
始動方式 :
セル式

車体 :
フレーム形式 :
アンダボーン
キャスター :
20.00 °
トレール :
68 mm
トレッド :
385.0 mm

ステアリングシステム :
ハンドル切れ角（左）:
38.5 °
ハンドル切れ角（右）:
38.5 °

燃料 :
フューエルタンク容量 :
6.6 L

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
油圧式シングルディスクブレーキ

懸架方式 :
種類（前）:
テレスコピック
種類（後）:
ユニットスイング

緩衝方式 :
ショックアブソーバータイプ（前）:
コイルスプリング / オイルダンパー
ショックアブソーバータイプ（後）:
コイルスプリング / オイルダンパー

フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス

サイズ :
90/80-14M/C 43P
メーカー / 銘柄 :
CHENG SHIN/M6231

リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
110/90-12 64L
メーカー / 銘柄 :
CHENG SHIN/M6232

トランスミッション :
1 次減速比 :
1.000
2 次減速比 :
9.533 (44/15 x 39/12)
変速比 :
2.361–0.794 :1

エレクトリカル :
点火方式 :
TCI

ヘッドライト :
ヘッドライト球 :
ハロゲンバルブ

バルブワット数 x 個数 :
ヘッドライト :
12 V, 60.0 W/55.0 W × 1
テール / ブレーキランプ :
LED
方向指示灯（前）:
12 V, 10.0 W × 2
方向指示灯（後）:
12 V, 10.0 W × 2
メーター灯 :
LED
マーカーランプ :
LED

パイロットランプワット数 x 個数 :
方向指示器表示灯 :
LED
ヘッドライト上向き表示灯 :
LED
冷却水温警告灯 :
LED
エンジン警告灯 :
LED

エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量 :
定期交換時 :
0.80 L

ファイナルギヤオイル :
指定オイル :
ヤマルーブ ギヤオイル
オイル量 :
0.20 L

クーリングシステム :
リザーブタンク容量（FULL レベル）:
0.33 L
冷却水容量（ラジエターと全ての経路）:
0.37 L

ケーブルとレバーの遊び :
リヤブレーキレバー遊び :
10.0–15.0 mm
スロットルグリップ遊び :
3.0–7.0 mm

フロントディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
5.8 mm
使用限度 :
1.0 mm
パッド厚さ（外側）:
5.8 mm
使用限度 :
1.0 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

リヤディスクブレーキ :
パッド厚さ（内側）:
7.0 mm
使用限度 :
1.5 mm
パッド厚さ（外側）:
7.0 mm
使用限度 :
1.5 mm
指定ブレーキフルード :
BF-4 (DOT-4)

ホイールトラベル :
ホイールトラベル（前）:
90 mm
ホイールトラベル（後）:
89 mm

タイヤ空気圧（冷間時）：
前輪　（1 名乗車）：
175 kPa (1.75 kgf/cm²)
後輪　（1 名乗車）：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
前輪（2 名乗車）：
175 kPa (1.75 kgf/cm²)
後輪（2 名乗車）：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)

バッテリー :
バッテリー型式 :
YTZ7V
バッテリー容量 :
12 V, 6.0 Ah

点火タイミング :
点火時期 (B. T. D. C.):
6.5 ° /1600 r/min

スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK/CR7E
プラグギャップ :
0.7–0.8 mm

ヒューズ容量 :
メイン :
20.0 A
ヘッドライト :
15.0 A
シグナル :
10.0 A
バックアップ :
10.0 A

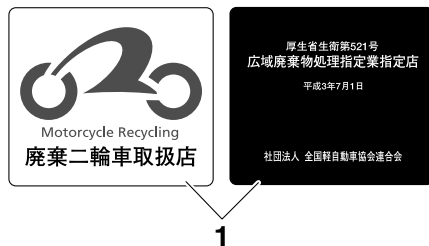
JAU36641

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

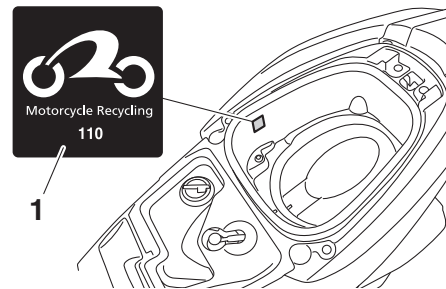
廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。

1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。

1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。
（財）自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/
二輪車リサイクルコールセンター
電話番号　０３－３５９８－８０７５
受付時間　９時３０分～１７時００分（土・日・祝日・年末年始等を除く）

JAU28392

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

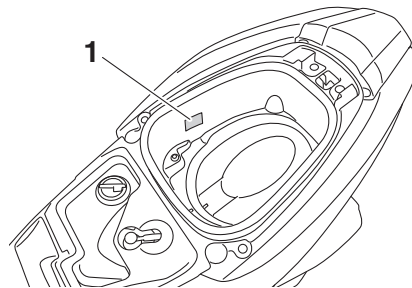
サービスマニュアル　部品番号：

QQS-CLT-000-2CM

JAU50492

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、トランク内に貼り付けてあります。

1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は
　TRICITY MW125
モデルラベル
　製品仕様を示しています。
　○
　カラーリングを示しています。
　●

JAU50501

車台番号

1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50521

型式認定番号

1. 型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

索引

10

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-102-2CM

PRINTED IN THAILAND
2014.07
(J)